
遊戯王GX 時代を超えた転生者

アマ公

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 時代を超えた転生者

【Nコード】

N6547Z

【作者名】

アマ公

【あらすじ】

子供を助けて死んでしまった「南 彩人」がいろいろなデッキを使って遊戯王GXの世界を過ごしていく。

シンクロやエクシーズをしますのでにがてなかたは読まないようにしてほしいと思います。
できれば感想などを書いてもらえると主のやる気ができるので願います。

序章（前書き）

初めまして「アマ公」です。

初めて小説を書いたのでわかりずらいところも多々あると思いますが、暖かい目で見守ってもらえると幸いです。

自分のペースでできる限り投稿していきたいと思えます。

序章

side???

小説でよくある話かもしれないけど俺は今神様の前にいる。

神様曰く俺は一度車にひかれそうな子供を助けて自分が死んでしまつたらしい。

そこで俺は神様に気に入られたようでも遊戯王GXの世界に転生させてくれるらしい。

俺の名前は「南 彩人」（みなみ さいと）遊戯王が好きな高校生だった。

生前はテレビで遊戯王ZEXALがテレビでやっていたのを覚えている。

side out

「お前は生前に体を張って子供を助けたいいやつじゃったかろのおゝそのまま逝かせてしまうのは惜しいからお前の好きな遊戯王の世界に転生させてあげようと思つのじゃよ」

つと神様が言つてくださいましたので

「それじゃあよろしくお願いします。」

「それじゃ、転生させるさいになにかオプション的なものをつけてやってもいいのじゃがどうする？」

「なにか希望することはあるかね？」

「それじゃあ、今俺が使っているカードとデッキを持っていきたいのと原作に出てくるキャラクターと同じくらいのディスプレイード

ローをお願いしたいです。」

「それぐらいなら構わんじゃろ」

「シンクロモンスターやエクシーズモンスターも持っていくのかね？」

正直、遊戯王GXに出てこないシンクロモンスターやエクシーズモンスターを持っていくのはどうかと思ったが、やっぱりもっていき
たいな。

「シンクロモンスターやエクシーズモンスターもお願いします。」

「わかったのじゃ、それじゃあカードは随時送ることにしよう。」

これから好きな遊戯王の世界にいけると思うとなんだか楽しみにな
ってきたな！

楽しいデュエルをたくさんできるといいな！！

「それじゃあ転生させるぞ」

「入学試験当日におくるからのおゝ新たなよい人生になるように働
も力をかすからの」

こうして俺の新たな人生が始まりを告げる。

序章（後書き）

文章考えるのって難しいですね（泣）

次は入学試験です。

デッキはその時に紹介したいと思います。

第一話 入学（前書き）

2話目です。

今回はヒロインになる予定の女の子のデュエルです。

ハッキリ言ってた強いですはい。

クリスティア苦手ですね。

第一話 入学

本当に遊戯王GXの世界に転成者してきたんだなあ。

目の前にある海馬ドームを見上げながらそう思った。

「記憶はちゃんと残ってるんだな」

腰にはデッキがひとつついていて、

腕にはデュエルディスクがついていた。

「突っ立ってても仕方ないし中に入るか。」

中に入ってみるとすでに実技試験が始まっていた。

「そういえば俺って受験番号何番だっけ？」

ゴソゴソとポケットの中から受験票を取り出して見ると。

「受験番号112番 南みなみ彩人さいと」

原作では十代が110番だったはずだから俺の他に原作にはいなかった人がいるってことか。

「てか俺って十代よりバカってことか！」

自分で突っ込んでしまったorz

そんなことを考えて落ち込んでいると…

「くらえ！ スカイスクレーパーシュート！」

「マンマミーヤ！ 私の『古代の機械巨人』が」

やっぱりソリッドビジョンはかっけ〜な？

十代に負けて落ち込んでるクロノス先生が退場して新たな試験官が出てきた。

「次！ 受験番号111番！」

「はい…」

緊張しているのか少しおどおどしながら女の子が出てきた。

デッキをディスクにセットするぐらいには少し落ち着いてきたみたいだ。

「それでは試験を始める」

「『デュエル？』」

「私のターン ドロー！」

先行は試験官からのようだ。

「『シャインエジェル』を守備表示で通常召喚」

守 800

「リバースカードを二枚セット」

「ターンエンド」

「私のターン ドロー」

「手札から『大嵐』を発動します」

「何？」

リバーズカードは激流葬とミラーフォースか
危なかったな。

「さらに手札から『ヘカテリス』を捨てて効果発動します、デッキから『神の居城ーヴアルハラ』を手札に加えます。」

「そして手札から『トレードイン』を発動します。」

「手札交換カードか」

「手札事故でも起こしているのかな？」

手札交換カードを使って手札事故とか言ってる時点で負けフラグだよな。

俺の予想が正しくて手札に蘇生カードがあつたら女の子の勝ちだな。

「手札から『神の居城ーヴアルハラ』を発動します、そして手札から『墮天使アスモディウス』を特殊召喚、そして効果発動、デッキから『大天使クリスティア』を墓地に送ります。」

「手札から『死者蘇生』を発動します。墓地の『墮天使スペルビア』

を特殊召喚します。

『スペルビア』の効果で墓地の『クリスティア』を特殊召喚します。

」

あーあ、

あの試験官終わったな。

まだいけるみたいな顔してるけど『クリスティア』の効果知らないのかな？

「バトル！」

「『クリスティア』で『シャインエンジェル』に攻撃します。」

「……………」

名前が思いつかないらしい。

いつの間にか『クリスティア』が『シャインエンジェル』を切り裂いていた。

「くっ やるな！ だが『シャインエンジェル』が戦闘で破壊された時デッキから攻撃力1500以下のモンスターを特殊召喚できる！」

「私はデッキから『クリスティア』がフィールドにいる限りお互いに特殊召喚をする事ができません。」 なんだと？

「残り2体のモンスターでダイレクトアタックします！」

「ぐああ〜?」

L I F E 4 0 0 0 I 1 9 0 0

「ありがとうございました」

小さくお辞儀をして女の子はデュエル上から降りて行った。

後攻ワンターンキルですか。

目立つ事するなあ〜ww

会場がざわついてるよw

「さて、次は俺の番かいつちよ楽しんで来ますか!」

第一話 入学（後書き）

始めてデュエルしてるところ書きましたが難しいです（泣）
技の名前は思い浮かばなかったので今回ははぶきましたw

よくわからないかもしれませんが暖かい目読んでやってください。
それでは次回彩人がデュエルします。

第3話 シンクロ召喚 やっぱりワンキル!?(前書き)

今回は彩人君のデュエルです。

結構悩んだんですけど最初からシンクロしていくことにしました。

それではクロノス先生の悲惨なデュエルをお楽しみください W W

第3話 シンクロ召喚 やっぱりワンキル!?

side 彩人

受験番号111番の女の子のデュエルが終わって俺が呼ばれる番がやってきたようだ。

俺の相手は誰なんだろうな？

そつえば腰にひとつデッキついてたけど中身確認してなかったww
どうしよう、なんのデッキかわかんないや。

まあデュエルが始まってからの楽しみということにしとこうかな。
俺が前世で使っていたデッキなら正直この場で負ける気はしないからな。

自分のデッキを信じて楽しくデュエルとでもいきますかね。

side out

「次っ！ 受験番号112番!!」

「ほーい」

っと呼ばれたのでデュエル上になってみるとそこにはクロノス先生が立っていた。

やっぱり試験の相手はクロノス先生じゃないとねww

「さっきのドロップアウトボーイにやられたうさはらしをしてやる
ノーネ。」

「恨むならさっきのドロップアウトボーイを恨むノーネ。」

「すみませんが負けてあげるつもりはないのでよろしくお願いします。」

「楽しいデュエルにしましょう。」

「ドロップアウトーが何ほざくノーネー!!」

「返り討ちにしてやるノーネー!!」

「デュエル!!」

「私のターンなノーネ ドローニヨ」

どうやら先行はクロノス先生らしい。

「私は『トロイホース』を攻撃表示で召喚なノーネ、そして手札から『デュアルサモン』を発動するノーネ、『トロイホース』を生贄にして最強のモンスター『古代の機械巨人』を攻撃表示で召喚するノーネ。」

A / 3000

さすがはクロノス先生、最初のターンで『古代の機械巨人』を召喚してくるなんてな。

最後のころの改心したクロノス先生は好きなんだけどな。

「リバーズカードを2枚セット、ターンエンドなノーネ。」

クロノス：手札1枚

私のアンティークギアゴーレムを破壊できるとは思わなければど一様念には念を入れとくノーネ。

リバーズカードは『リミッター解除』と『ミラーフォース』なノーネ。

コテンパンにしてやるノーネ。

「俺のターン ドロー！」

おおっ、このデッキは俺が使ってたデッキで安定して強かったデッキじゃんか

しかもこの手札・・・ぶつちゃけワンキルじゃん

「俺は手札から『大嵐』を発動！」

大嵐ってほんと強いよな。あ

一枚でとるアドバンテージじゃないよな。

「ペペロンチーノ!?!」

危ない危ないww

あんな危ないもん伏せてるなんてどんだけ手札いいんだか。

まあ俺も人のこと言えないかw

「『未来融合ーフューチャー・フュージョン』を発動！ 対象は『ファイフ・コック・フット・フット』
F・D・G』デッキから素材として『ドラグニティアームズ・レヴ
アティーン』2枚と『ドラグニティーフアランクス』2枚、『ドラグ
ニティーフアキュリス』を墓地に送る。』

会場のみんながざわざわしている。

それもそうかこの時代に『ドラグニティ』はないからな。

「聞いたことがないモンスターなノーネ」

「これから忘れられないようにトラウマにしてあげますよ」

「なにを言っているノーネ、私の場には攻撃力3000のアンティ

「チューナーモンスターってなんなノーネ!? 聞いたことないノ
ーネペペロンチーノ」

会場のみんなも気になっていようで首をかしげている。

「それについては後で説明してあげますよ。」

「レベル4の『ドウクス』にレベル2の『ファランクス』をチュー
ニング」

「神の力が槍に宿りて。われの道を切り開かん! シンクロ召喚! 突
き刺せ! ドラグニティナイトヴァジュランダ!」

A / 1900

「「「「「!?」「」「」」

会場のみんなが啞然としている。

「どうなっているノーネ、そのモンスターはどうやって出ってきた
ノーネ!? 説明してほしいノーネ!」

「シンクロ召喚はチューナーモンスターと呼ばれるモンスターとチ
ューナー以外のモンスターのレベルを足して特殊召喚する方法です」
「レベル4の『ドウクス』とレベル2のチューナー『ファランクス』
でシンクロすることでレベル6の『ヴァジュランダ』を特殊召喚し
たわけです。」

「驚いたノーネ 初めて見たノーネ それでもただの攻撃力1900のモンスターじゃわたしのモンスターは倒せないノーネ。焦らせないほしいノーネ」

「焦らないでほしいですね『ヴァジュランダ』の効果発動、墓地からレベル3以下のドラゴン族・ドラグニティを装備することができます、効果で墓地の『アキュリス』を装備！」

「そして手札から『死者蘇生』を発動！墓地の『レヴァティン』を特殊召喚！」

A / 2600

「『レヴァティン』は特殊召喚されたとき墓地のドラゴン族を装備することができる！もう『フランクス』を装備、そして『フランクス』の効果で特殊召喚！」

「リバースカードを2枚伏せレベル8の『レヴァティン』にレベル2の『フランクス』をチューニング」

「3つの首を持つ龍よ。その巨大な力で敵をねじ伏せる！シンクロ召喚！喰らい尽くせ！『トライデント・ドラギオン』」

A / 3000

「『ドラギオン』は召喚に成功した時自分フィールド上のカードを破壊することでその枚数分攻撃することができる！リバースカードを2枚破壊して3回分の攻撃の権利をえる！」

「3回攻撃ができたとしてもアンティークギアゴーレムと同じ攻撃力じゃどうしようもないノーネ」

正直焦ったノーネ

「『ヴァジュランダ』の効果は装備するだけじゃないんですよ先生」
「なんですーのペペロンチーノパルメザンチーズ!？」

「『ヴァジュランダ』の効果発動!装備カードを一枚墓地に送るところで攻撃力を倍にする!」

A / 1900 3800

「攻撃力3800とかありえないノーネ アンティークギアゴーレムが戦闘で負けてしまうノーネ」

「そして墓地に送られた『アキュリスの』効果発動!装備状態のこのカードが墓地に送られたときフィールド上のカードを1枚破壊する!先生の『古代の機械巨人』を破壊します」

「戦闘じゃなくて効果で破壊されてしまったノーネ!？」

「これじゃ場ががら空きなノーネ!！」

「バトル!!!」

「『ヴァジュランダ』で先生にダイレクトアタック」

「雷牙槍!」

雷をまとった槍で先生を突き刺した。

LP 4000 200

「ドラギオン』でダイレクトアタック」

「破滅のトライデントストリーム」3連打ああああ!!

5連打カイザー的なノリで言ってみたけど案外楽しいかもしれないww

「なんでこうなルーノ ペペロンチーノ!?!?」

LP200 18800

「楽しいデュエルでしたよ先生、またやりましょうね トラウマに
ならないといいですねww」

第3話 シンクロ召喚 やっぱりワンキル!?(後書き)

長い文になってすいませんでした。

最初はやっぱりワンキルでしめないとだめですよねww

彩人の最初のデッキは『ドラグニティ』でした。

普通に強いですよww

ペペロンチーノ個人的に好きですよww

次はたぶん短めの分になると思われます。

デュエルが終わった後を書いていきたいと思います。

フラグ立てちゃった？（前書き）

今回はデュエルなしです。

彩人君はなんかフラグ立てちゃってます。

フラグ立てちゃった？

「楽しいデュエルでしたよ先生、またやりましょうね　トラウマにならないといいですねww」

side???

私は彼のデュエルを見てとてもかっこいいと思い彼に興味をもった。

シンクロ召喚という未知の召喚方法を使ってあの変な先生をワンターンキルしてしまった。

正直とてもかっこよかった。

なんだろうさつきから彼のことが気になってる。

こんな思いになったのは初めて・・・

side out

side彩人

「派手にやっちゃたけどだいじょうぶだよな。」

そんなことを考えていると向こうから十代達覇王がやってきた。

「すげーデュエルだったな！！あんなの初めて見たぜ！　俺、遊戯十代。気軽に十代でいいぜ。」

「なんかすごい目立ってたっすよ、けどかっこよかったす。僕、丸藤 翔。翔でいいっすよ。」

「君のデュエルには興味があるこれからそれを調べてみたい。俺は

三沢 大地だ。よろしく」

いきなり原作キャラとコンタクトとっちゃたよw
これも神様の加護ってやつかな？

「三人ともこれからよろしくな。俺は南 彩人だ。彩人って呼んでくれ。」

「それより俺とデュエルしてくれよ！彩人のかっこいいモンスターをみたいぜ！！」

なにいつてんだかこの霸王は、さすがに目立ちすぎた。今日はもうあんまり目立ちたくないんだよな。

「わるいな十代、また今度な。」

「ええ〜、デュエルしようぜ〜。」

十代にせがまれて困っていると。あのワンキルしてた女の子をみつけた。

「ちよつと用事ができた、じゃあまた今度な。」

「十代、入学したらデュエルしようぜ。」

「わかった、絶対だからな！」

「また今度っす。」

あれ？だれか忘れてる気がするけどまあいつか。
あの子に話しかけてみよ。

「おおーい」

side out

side???

「おおーい」

「きゃっ!?!」

突然さっきまで考えていた彼から声をかけられて驚いてしまった。

「わるい、驚かせちゃったな。」

近くで見ると案外かっこいいかも。

「どうした？俺の顔になにかついてんのか？」

どうやらじっと見てしまったらしい。

「何でもないです．．．どうしたんですか？」

side out

side 彩人

声をかけたら驚かれてしまった。

「わるい、驚かせちゃったな。」

なぜか俺の顔をじっと見ている。案外かわいいかもしれない。

「どうした？俺の顔になにかついてんのか？」

「何でもないです・・・どうしたんですか？」

「さっきあの先生相手にワンキルしてただろ？つよいんだな〜って思ってたな。」

「それと後ろにいる小さな大天使も気になっただ。」

俺もさっき十代の時に気づいたんだが精霊が見えるようになったらしい。

正直おどろいた、後で十代にも教えておこう。この子が気になっただ言いそびれちゃったからな。

「この子が見えるんですか？」

「ああ、さっきのデュエルで活躍してた『大天使クリステイア』だろ。」

そう彼女の背中にはデフォルメされた『クリステイア』がいる。

「自己紹介がまだだったな、俺は、南 彩人だ。 彩人って呼んでくれ。」

「私は須藤^{すどう} アキっていいいます。下の名前で呼ぶのは少し恥ずかしいです。」

「わかったアキな。できれば慣れてるから下の名前の方がいいんだ

が、まあ恥ずかしいならしかたないか。」

「俺には精霊はいないんだが精霊が見える者同士よろしくな。」

「はい、よろしく願います。」

そのあと雑談したり、連絡先などを交換してわかれた。

「しかし、あの子かわいかったな。」

顔をじっと見られたときは少しドキッとしてしまった。

「俺も精霊が見えるとわな。」

「まあ深く考えても仕方ないな。楽しくデュエルできればそれでいいや。」

side out

sideアキ

声をかけられたときはびっくりしてしまった。

近くで見たらかつこよかったからすこしドキドキしてしまった。

「南さんも精霊が見えるとはおもわなかったな。」

「話してて楽しかったな。また会いたいかも。」

フラグ立てちゃった？（後書き）

やっぱり書くのって難しいですね。

アキちゃんの登場です。

後でキャラに関しては紹介したいと思います。

誰か途中から忘れてます。

次はサンダーさんが出てくるかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6547z/>

遊戯王GX 時代を超えた転生者

2011年12月25日02時47分発行